

平成三十年年度 日高看護専門学校 入学試験問題

〔地域枠・社会人〕

〔国語総合〕

(時間：六十分)

《注意事項》

- 1 試験監督者の指示があるまで問題冊子は開かないでください。
- 2 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があります。監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。
- ① 氏名欄に、氏名・フリガナを記入してください。
- ② 番号欄に、右詰めで受験番号を記入し、その下のマーク欄にマークしてください。
正しくマークされていない場合には、採点できないことがあります。
- 3 解答は、解答用紙の問題番号に対応した解答欄にマークしてください。
国語総合の問題は全部で三十八問あります。解答用紙の問一から問三十八までの解答欄を使用してください。
- 4 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 5 試験終了後に問題冊子を回収しますので持ち帰らないでください。
- 6 問題冊子の所定の欄に受験番号を記入してください。

受 験 番 号

□ 次の問いに答えなさい。解答番号は□1～□5。

問一 次の作品の中で、作品の書かれた時代が違つたものを一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は□1。

- ① 平家物語 ② 今昔物語集 ③ 徒然草 ④ 宇治拾遺物語

問二 次の書き出しで始まる作品の題名を選び、番号で答えなさい。解答番号は□2。

或る日の事でございます。お釈迦様は極楽の蓮池のふちを、一人でぐらぐらお歩きになつていらつしやいました。

- ① 蜘蛛の糸 ② 伊豆の踊子 ③ 夜明け前 ④ 高瀬舟

問三 次のうち、敬語の使い方が誤っているものを一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は□3。

- ① あなたのおっしゃるとおりになりました。
② 先生が、誕生日の記念に本をくださった。
③ 今ブータンの国王陛下がいらつしやつた。
④ あのかわいそうな犬にエサをあげなさい。

問四 「有名無実」と同じ漢字の構成で成り立っている四字熟語を一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は□4。

- ① 喜怒哀楽 ② 完全無欠 ③ 質疑応答 ④ 老若男女

問五 次の傍線部の語句と同じ品詞が用いられているものを、あとから一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は□5。

二月のある日曜日の朝、ぼくは不思議な鳥を見た。

- ① 家にある本にはそのことは載っていない。
② 空手の先生には、師としての威厳がある。
③ 暇のある日曜日というのは久しぶりです。
④ ある人の説では進化論は間違いだそうだ。

□ 次の文章を読み、後の設問に答えなさい。解答番号は6～22。

これからの日本が世界に負けない国づくりをするには、英語を重視しなければならない。初等教育から学校では英語を教授（使用）言語とし、政府 ^a キカンで用いられる言葉を英語にすべきである――。

これはある有力政治家の主張だが、最近の新聞から引いたものではない。およそ一四〇年前の一八七〇年代に展開された議論である。今で言うところの「英語公用語化論」が、明治初期にすでになされていたのだ。

明治の「英語公用語化論」の急先鋒^{きゅうせんほう}だったのは、のちに初代文部大臣もつとめた森有礼^{もりありのり}だった。

森有礼は、日本の近代化は日本語では難しい。近代化して欧米列強に負けない国づくりを行っていくためには英語で国づくりを進めていかなければならないと考え、日本語廃止論にまで踏み込んだ極端な主張を繰り広げた。その主張は、世界と伍^ごしていくために、政府内では日本語の使用をやめ、英語で政務万事を執り行うべし、というものだった。

なぜ、森有礼はこれほどの極論を真剣に主張していたのだろうか。実は、現代の英語化 ^b スイシン派の主張に比べると、¹ 森有礼の主張のほうがはるかに深い危機感から発したものだ。というのは、明治初期の日本語には、欧米列強のような近代国家を建設していくために必要な語彙^{ごい}が、まだまったく言っていないほど存在していなかったからだ。

^A、本書でもよく、トウジョウしている「社会」「近代」「経済」という単語。これらはそれぞれ、明治初期に日本語のなかに生まれた言葉であり、それ以前には存在しなかった。

欧米列強に日本が文明国だと見做^{みな}されず、不平等条約を結ばれているなか、明治新政府には欧米でも通じる法体系を確立し、政府の各組織を整えていくことが求められていた。

近代日本の ^d タイセイを早急に整えなければ、日本も他の非欧米諸国のように植民地化されてしまうかもしれないという焦りも募っていただろう。そのためには、欧米で用いられていた、近代社会の諸相を表すような概念を手っ取り早く扱えるようにしなければならぬ。

そこで森有礼は、日本語を公用語として使用すること自体をやめてしまい、^{おおよそ} 公の言語を英語に統一することでそれを実現すればよいと主張したのだ。

森有礼は、日本は英語で近代化すべきだという構想を、さまざまな場面で主張した。

欧米への留学を通じ、英語を努力して身につけた彼は、欧米の言語学者などの知識人に自分の見解を書いた英文の手紙を送り、彼らの意見を求めた。

政治、学問、軍事をはじめ、あらゆる分野で欧米の「進んだ」文化をとり入れようという機運が高まっていた当時としては、欧米の知識人が日本の「英語公用語化論」に賛成していると主張できれば、¹ 実に心強い ¹ 後ろ楯となつたことだろう。

^B、森有礼からの手紙を受け取った欧米の識者^{しきしや}たちは、彼の急進的な主張に反対し、² たしなめるような返事^{へんじ}を送ってきたのだ。たとえば、イェール大学教授ウィリアム・D・ホイットニー。ホイットニーは、アメリカ言

語学協会の初代会長であり、有名な『センチュリー・デイクシヨナリー』の編者でもあった。

森有礼はホイットニーへの書簡で、次のような主張を展開した。

日本語は文法的に不十分な言語である。語彙も少なく、知的な概念は、漢語、つまり中国語の助けを借りないと論じることができない。したがって、日本語は近代化を成し遂げるには向かない不完全な言語である。

そして森有礼は英語による近代国家建設を主張するのだが、興味深いことに、当時欧米で話されていた普通の英語を「ドウニユウするのではなく、その「簡易版」とも言うべき言葉を使いたい、という構想を記している。英語は、発音と綴りが一致しないところが多く、外国人が学びやすいように言文一致をなるべく目指してほしいと望んだのである。

英語にも改革を求めたうえで、森有礼は、簡易化され、学びやすく改められた英語によって日本の近代化を図ると主張した。小学校から大学まで教育は、英語で行われるべきだ、国家の制度も英語による運営がなされるべきだ、と述べたのである。

ところが、意見を求められた当のホイットニーは、英語による日本の近代化について否定的な「カイトウ」を示した。むしろ、森有礼の「勇み足を諫めるような返答をしたのだ。

ホイットニーからの返答は、おおよそ次のようなものだった。

母語を棄て、外国語による近代化を図った国で成功したものなど、ほとんどない。しかも、簡易化された英語を用いるというのでは、英語国の政治や社会、あるいは文学などの文明の「セイカ」を獲得する手段として「覚束ない」。そもそも、英語を日本の「国語」として採用すれば、まず新しい言葉を覚え、それから学問をすることになってしまい、時間に余裕のない大多数の人々が、実質的に学問をすることが難しくなってしまう。その結果、英語学習に割く時間のふんだんにある少数の特権階級だけがすべての文化を独占することになり、一般大衆との間に大きな「カクサ」と断絶が生じてしまうだろう。

まさにホイットニーが懸念したのは、前章で見たラテン語から「土着語」への知織の「翻訳」の努力を通じてヨーロッパの庶民が享受した知的な進歩への道を、日本人が自ら閉ざしてしまうのではないかということだったのだ。さらに、ホイットニーは次のように述べ、森有礼に日本語による近代化を勧めている。

「たとえ完全に整った国民教育体系をもってしても、多数の国民に「シンギ」な言語を教え、彼らを相当高い知的レベルにまで引き上げるには大変長い時間を要するでしょう。もし大衆を啓蒙しようというのであれば、主として母国語を通じて行われなくてはなりません」

そしてホイットニーは、日本文化の「進歩」のなかには、「母国語を豊かにする」ことが含まれなければならないと説いた。豊かになった「国語」こそ、日本の文化を増進する手段であり、それが一般大衆を文化的に高めることにつながるというのである。

お雇い外国人ダビッド・モルレーも、森有礼の「英語公用語化論」に否定的見解を述べている。モルレーは、教育とは、前世代までの伝統の蓄積に立って行われるべきものであり、まったく新しい「キン」の上に成り立つものではない、と指摘した。つまり、いくら日本社会の革新を断行するとは言っても、前世代までの人々が築き上げてき

たものすべて否定し、無視してしまい、それとは断絶した形で、まったく新しい知識体系を他所から輸入することは、実際問題としてあり得ない、ということだ。

そしてモルレーは、教育政策を考えるうえで、変えてよいものと変えてはならないものがあるが、教育で用いる言語は最も変えてはならないものの一つである、と断言した。

また、モルレーは、ある国において普通の人々が用いている日常の「国語」を用いないのであれば、その国に教育が普及することなどあり得ないと指摘し、次のように述べた。

たとえ明治初期の今、日本語で西洋の学問を講じるのが難しくとも、将来は日本語で教えられるようにならないければ、全国に教育が普及するには至らない。将来は日本語で教えるように改めなければならない。モルレーは、そう論じたのである。

(施 光恒『英語化は愚民化』)

問一 傍線部 a～j と同じ漢字が用いられているものを、次からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は **6**～**15**。

- a キ|カ|ン **6** ① 雇用問題に関するキ|ジを書く。 ② 森のレイ|キ|が肌に心地よい。
- b ス|イ|シ|ン **7** ① 場面から心情をル|イ|ス|イ|する。 ② 私のス|イ|ミ|ン時間は八時間だ。
- c ト|ウ|ジ|ョ|ウ **8** ① ト|ウ|メ|イな湖水。 ② 会社がト|ウ|サンする。
- d タイ|セ|イ **9** ① 校長先生がト|ウ|ダンする。 ④ 刑法第十条にガ|イ|ト|ウ|する。
- e ド|ウ|ニ|ュ|ウ **10** ① 彼のケン|ド|ウの師範だ。 ② 合格の決めてはセ|イ|シ|ン力だ。
- f カ|イ|ト|ウ **11** ① この車のセ|イ|ノ|ウは高い。 ④ セ|イ|コ|ウな時計。
- g セ|イ|カ **12** ① 彼はケン|ド|ウをみる兄。 ② 学生をシ|ド|ウする先生。
- h カ|ク|サ **13** ① 弟のメン|ド|ウをみる兄。 ④ 機械がサ|ド|ウ|する。
- i シ|ン|キ **14** ① 野球部がカ|イ|サンする。 ② 飛行機がセン|カ|イ|する。
- j キ|ン **15** ① 委員会は明日カ|イ|サイ|される。 ④ 絶好のキ|カ|イをつかむ。
- ① カ|センが氾濫して被害が出た。 ② 朝市で新鮮なカ|ジ|ツの香りがした。
- ③ 彼は実力をカ|シ|ョ|ウ評価されている。 ④ カ|メ|ンの下に隠された素顔。
- ① カ|ク|メ|イで多くの人が死んだ。 ② 看護師のシ|カ|クをとる。
- ③ 合格をカ|ク|シ|ンする。 ④ サツ|カ|クを利用しただまし絵。
- ① キ|ミ|ョ|ウな形の建物。 ② 大統領は国民のキ|ボ|ウの星だ。
- ③ 福祉施設にキ|フをする。 ④ 予備校のカ|キ|講習に出る。
- ① ソ|ボ|の墓にお花を供える。 ② ヘ|イ|ンは静かな町だ。
- ③ ソ|ゼ|イの割合が上がる。 ④ 国家のソ|セ|キとなる。

問一 空欄 A・B にあてはまる接続語として最も適切なものを次から選び、それぞれ番号で答えなさい。解答番号は 16・17。

- A 16 ① あるいは ② たとえば ③ さらに ④ また
- B 17 ① だから ② つまり ③ そして ④ ところが

問三 二重傍線部 I 「後ろ楯」・II 「勇み足」の意味として最も適切なものを次から選び、それぞれ番号で答えなさい。解答番号は 18・19。

- I 18 ① 背後から見張ること ② 陰にいて助けること ③ 勇敢に闘うこと ④ 保証すること

II 19 ① 何の思慮もないのにただ自分の意見を押し通すこと。

- ② 周りの迷惑も考えず、思ったとおりに行動すること。
- ③ 熱心にあまりに、言動が度を過ぎてやり損なうこと。
- ④ 自分を顧みず、人のために懸命に尽くすということ。

問四 傍線部 I 「森有礼の主張のほうはるかに深い危機感から発したものだ」とあるが、どういうことか。その内容の説明として最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は 20。

- ① 日本には近代国家を建設していくための語彙ごいが存在しないため、英語を公用語としないと文明国の文化も芸術も中途半端な形でしか理解できないのではないかという心配から生じたものであるということ。
- ② 英語で国づくりを進め、欧米で用いられている近代社会の概念を扱えるようにしなければ、日本も他の非欧米諸国のように植民地化されてしまうかもしれないという焦りから生じたものであるということ。
- ③ 英語を公用語にし、政治や学問や軍事などあらゆる分野で欧米の「進んだ」文化をとり入れないと、日本は今後世界の進歩についていけなくなるのではないかという危惧から生じたものであるということ。
- ④ 簡易化され学びやすく改められた英語で日本の近代化を図らなければ、小学校から大学までの教育は旧態依然のままであり、世界の潮流についていけないという危機意識から生じたものであるということ。

問五 傍線部2「たしなめるような返事」とあるが、その内容として最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は21。

- ① 日本語という母国語を捨てて、英語を「国語」として採用すれば、もちろん、政治や学問や軍事においては欧米諸国と対等な位置につけるだろうが、「ものまね」しかできない国となって、本当に国民や人類にとっての新たな文化を創り出すことは不可能になるということ。
- ② 母国語を重視することを止め、英語を「国語」として採用すれば、英語を使っている国の国民の考え方が理解できるので交渉が容易になり、政治的にも文化的にも、欧米列強に日本が文明国だと思わせることができ、不平等条約の問題も解決することができるとのこと。
- ③ 英語を「国語」として採用すれば、学問することが困難になり、国民の間に断絶が生じるとともに、知的な進歩への道を閉ざしてしまう。したがって、豊かな「国語」を養うことが、日本の文化を増進し、それが、一般大衆を文化的に高めることにつながるということ。
- ④ 英語を「国語」として採用すれば、たしかに外国人とコミュニケーションをとることは容易になるが、それによってかえって国民の、母国語に対する愛着が薄れてしまつて、結果的に自分の国が築き上げてきた文化や技術が失われ、人々の心が殺伐としてくるということ。

問六 この文章の内容として、最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は22。

- ① 日本が世界に負けない国づくりをするには、英語を重視すべきだが、現代の学校教育は、単に文法などの読解を重視した教育しか行つておらず、外国人との会話ができない人が多いので、今後は、会話重視の教育が大切だ。
- ② 日本語は文法的に不十分な言語であり、語彙も少なく、知的な概念は漢語、つまり中国語の助けをの助けを借りないと論じることができないので、結局、日本語というものは、近代化をし遂げるには向かない言語だと言える。
- ③ 完全に整った国民教育体系をもつてすれば、国民に新たに言語を教え、高い知識レベルにまで引き上げることは可能になるが、公用語を英語にすると特権階級と被特権階級とに分離させることになるので、慎重にすべきだ。
- ④ 「国語」を用いず、前世代までの人々が築き上げたものすべて否定し、新しい知識体系を輸入することは無意味であり、日本語で教えることで教育は普及し、より格調の高い人間を目指すような生き方をする事ができる。

三 次の文章を読み、後の設問に答えなさい。解答番号は23〜38。

私は明治四十二年一月一日に奈良県三輪山みわやまの麓ふもとに生まれました。私の母は、私を産むために陣痛を起こした時から、私の将来の教育、ホウシンaを決めて、それから私の育児日誌を毎日二十六年間書いているのです。その育児日誌を、私は二十六歳で結婚する日の午前に、母からもらったのです。いまもそれは戦災にも焼けず残っています。半分は水に浸ひかって頁ぺーじがめくれなくなりましたが、その最初に両親が相談して子どもを育てていく、要するに家庭教育のホウシンが書いています。

私は弟と二人兄弟ですが、その育児日誌のはじめに、まず私たち子どもたちの前では、父が母を、母が父を相互にほめあつて、お互いに言ったことに対して絶対に批判しないこと、そしてお母さんはりっぱだ、お父さんはりっぱだということをお互いに教bえこむことを、教育ホウシンにしています。それで私は、両親とも完璧な人格だと思いいこんでいました。ア

これは、やはり当時の明治教育の態度でしょうけれど、江戸時代の教育もそうだったと思います。これはいまの時代でも考えなければならぬ大事なことだと思います。

絶対的な父、絶対的な母というものを印象づけませんと、教育はできないのです。教育には一種の暗示的なことが多いのです。そのためにも父の言った言葉が絶対だと思わせない、批判の対象だと思わせるようなことでは、教育にならない場合があります。批判するという行為は、もっと大人になってからでよいのです。未完成の人間にまづ基本的な知識をもたせるには、教育者自身が尊敬されなければなりません。その教わるという姿勢の素地は、家庭においてつくられると思えますので、その点はカンシンcしました。

また私の父母は、直接ものを教えてくれませんでした。しかも私の両親は、その当時としては一番高い学校教育を受けていたのです。しかし、自分たちを単なる家庭教師だと思わせないようにしたのです。学校からかえってきてもらうに教えないということは、自分でやらなければいかんということをお身に付けさせるためだったのです。

私が一番ショックを受けたのは、私が中学二年生のころ、夏休みの英語の宿題を朝早く起きて大声で暗誦あんじゅうしていた時のことです。隣の部屋で縫いものをしていた母が、突然ものさしでぴしりと畳をたたいた。なんだろうと、思っdて音読を止めてみると、母は発音が違eうと言fって宿題の『アンデルセン伝記』の二十数ページを縫物をしながら全部すらすらと暗誦したことです。A 非常に正しいキングス・イングリッシュで。そしてその後で何を言っただかというとき、発音をおぼえたければ、辞書に発音記号があるじゃないかと言ったのです。それまでは田舎の中学で、発音記号を教えてくれなかったのです。それまで私は、母が高等師範の英文科を出ていることなど夢にも知らなかったほど、日常では教えられたことはなかったもので、びっくりしたわけです。イ

それから弟ができてからの話ですが、幼い方に対しては、つい両親たちがそれをかばうために、下の子を偏愛iしているかのように上の子は思うものだそうです。それを防ごうとしてたとえば、おやつを与える場合必ず両方の手におやつをもって背中にかくし、今日は兄さんの方から言いってごらんと言いって「右」と言いったら右手にもついているおやつをくれる。翌日は、今度は弟の方から先に選ばせて、言いった方を出す、こうすると子どもは、自然に公平に、えこひいきを感じないで楽しみながらおやつがもらえたと思いうわけです。

家庭では絶対に兄弟をえこひいきしてはいないと思ひこませていました。B 成長してからも平等だと思っていました。たとえば、弟は医科大へ行ったのですが、当時の私は、医科大は教材や参考書に学費がかかるだろうから、弟は同じ学費を送金されてかわいそうだと思っていました。ウ

また、母と子のやりとりをおやじも笑いながら見ていました。この笑いながらおだやかに見ているという、このおやじの姿勢が大事だと思います。無言であつたけれど、そのおやじの心にも母親の教育技術に対しての絶対的なサ^dンドウと、それに対して協力しようという気持ちが生み出していたわけです。時間がかかっても、公平だと思わせることがたいせつなのです。今のC には、ついそれができない欠点があるのではないかという気がします。

それから明治時代ですから、御先祖様のことを非常に大事にすることを教えられました。ちょうど江戸時代の豪商が家というものを大事にして、家名を継ぐということをやかましく言つたと同じです。家というものが、現在自分たちが生きているのは、ご先祖様あつたからなのだから、御先祖様を尊敬し大事にしなければいけない、ということは何かあると「御先祖様に申しわけない」という表現で母はくりかえしました。

いたずらをしましても直接しかりつけませんでした。ただ仏壇の前によばれて、黙って私の手を握るだけでした。しばらくしまして母は両眼に涙をためて――そのうちにポロポロ涙が落ちてきます。そしてきつく手を握つて「ご先祖様に申しわけない」と言つて泣くのです。何をしたことが悪いことだということを、私にはひとことも言わないのです。私は母が何で泣くのか分からなかった。しかし母を悲しませてはならない、やはり自分は何か悪いことをしたのだなと子ども心に考えて、やっぱりあれがいけないのかと自分反省するのです。エ

これはD 教育で、母が御先祖という一つの絶対的な象徴をつくりあげて、その象徴に対して私を従わせようとしたのです。家の中には個人をこえた高い倫ⁱⁱ理の力があつて、それにみんなが、フクジユウして家というものの組織が保てるのだ、ということをお教えたものだと思います。その象徴がたまたまご先祖だつたからいかにも前近代的と思われませんが、現在でも別の形でかまいませんが考えるべきことだと思います。家庭生活をするかぎり、家という組織をくずしてはならないのです。そういう点で、教育の原点はE にあるということをお、父親はとくにその代表的責任者であるということをお、強く自覚しなくてはならないものと思ひます。

(樋口清之『親父の日本史』)

問一 傍線部 a～e と同じ漢字が用いられているものを、次からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は 23 ～ 27。

- | | | | |
|---|---------------------------------|--|---|
| a | ホウ ^シ ン ²³ | ① シン ^チ ョウ ^ウ に物事を進める。 | ② 彼はシン ^{ライ} イでできる人だ。 |
| b | テツ ^{テイ} ²⁴ | ③ 先生をシン ^ソ コから信頼する。 | ④ 生き方のシン ^シ ン ²⁵ を見失う。 |
| c | カン ^{シン} ²⁵ | ① 最初の意見をテツ ^{カイ} イする。 | ② それはテツ ^{カク} な語釈だ。 |
| | | ③ テツ ^キ を打ち落とす戦闘機。 | ④ 父はテツ ^{コウ} 所に勤めている。 |
| | | ① 両親にカン ^{シヤ} する子どもたち。 | ② チームの勝利にカン ^{セイ} をあげる。 |
| | | ③ 野球部のカン ^{トク} 。 | ④ その問題を解くのはカン ^{タン} だ。 |
| d | サン ^{ドウ} ²⁶ | ① 神社にサン ^{パイ} イする。 | ② サン ^{マン} な頭。 |
| | | ③ 体操選手の妙技にサン ^{タン} する。 | ④ サン ^ヤ に分け入つて狼をするマタギ。 |

- e フクジユウ **27** ① シフクの一時を過ごす。 ② 壊れたフクシヤ器を直す。
- ③ フクメンを脱ぐプロレスラー。 ④ 菓をフクヨウする。

問二 空欄A・Bにあてはまる接続語として最も適切なものを次から選び、それぞれ番号で答えなさい。解答番号は **28**・**29**。

- A **28** ① しかも ② なぜなら ③ あるいは ④ ただし
- B **29** ① すると ② だから ③ ところで ④ そして

問三 二重傍線部 I「偏愛」・ II「倫理」の意味として最も適切なものを次から選び、それぞれ番号で答えなさい。

解答番号は **30**・**31**。

- I **30** ① すべての人を愛すること ② 特定の者だけを愛すること
- ③ 困っている人(隣人)を愛すること ④ 飼っている動物を愛すること
- II **31** ① 目には見えない神々や仏様 ② 誰もが理解すべき世間の常識
- ③ 行動の規範となる道徳観や善悪の基準 ④ 家庭内における親の威厳

問四 空欄C～Eにあてはまる語として最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は **32**～**34**。

- C **32** ① 家庭 ② 母親 ③ 父親
- D **33** ① ことはなき ② 非常に厳格な ③ まさに適切な
- E **34** ① 学校 ② 家 ③ 教師

問五 この文章からは、次の一文が抜けている。**ア**～**エ**のどこに戻すのが適切か。番号で答えなさい。解答番号は **35**。

実際は違っていたのでしよう。

- ① **ア** ② **イ** ③ **ウ** ④ **エ**

(次のページに問題は続きます。)

問六 傍線部1「私たち…教育ホウシンにしています」とあるが、その理由として最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は36。

- ① 明治の教育では、両親の言うことは絶対で批判することは許されないという考え方が根づいていて、親を批判することは家庭崩壊につながると思っていたため。
- ② 絶対的な父や母というものを印象づけ、教育者である父や母を尊敬させることで、教わる姿勢の素地を作り、未完成の子どもに基本的な知識を持たせるため。
- ③ 将来世間でうまく生きていくためには、上の立場の人間にさからわず、周りの空気を読み取って適切な行動をすることが必要だということを理解させるため。
- ④ 父親と母親が互いに批判し合う場面を見せようと、子どもはどう行動すればいいのか迷い、成長するにつれて親に対する信頼感がなくなってしまったため。

問七 傍線部2「私の父母は、直接ものを教えてくれませんでした」とあるが、その理由として最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は37。

- ① 子どもに教えるよさという気持ちはあるが、自分たちはたいした教育も受けておらず、下手に教えると子どもから見くびられ、今までの両親の威厳が失われるのではないかと考えたため。
- ② 直接ものを教えると、自分たち両親が最高の教育を受けているということが分かってしまい、子どもが自分も良い学校に入ろうという気を起こして、今よりお金がかかると考えたため。
- ③ 気軽に教えてしまうと子どもが親を頼り、自分で考えるということをしなくなるので、自分でやらなければいけないということを子どもに身につけさせなければいけないと考えたため。
- ④ 自分たちが最高の教育を受けていても、学問の進歩は日進月歩であり、自分たちの身につけた知識が最新の知識とは限らないので、間違った知識を教えることは控えようと考えたため。

問八 本文に書かれている内容として適切でないものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は38。

- ① 両親が子どもを教育する時には自分たちが子どもよりも優れていることを示す必要があり、そのためには子どもが学んでいる教科書を暗誦してみせることが一番効果的である。
- ② 未完成の人間に基本的な知識を持たせるには教育者自身が尊敬されなければならず、そのためには、家庭では絶対的な父、絶対的な母というものを印象づけなければならない。
- ③ 家庭で子どもに兄弟がいる場合には、絶対にえこひいきしてはいけないと思いきまることが大切であり、それによって、兄弟は成長しても自分たちは平等だと考えるようになる。
- ④ 一つの家庭にはその家庭を維持するための絶対的な象徴が必要であり、それを維持するための代表的責任者は父親であるということを現代の父親は、自覚しなければならない。